



【レースレポート】UCI シクロクロスワールドカップ 2023-2024 第 14 戦

全ての選手には、『ヨーロッパのレースに不慣れだと、ヨーロッパの選手に比べて流れが悪くなるので、どうしても序盤の落車に巻き込まれやすくなる。ラフな海外選手もいるので必要以上のコンタクトを避けることと、序盤の落車に巻き込まれることを前提とした心持ちでスタートするように』と注意をしてレースに送り出した。

【男子ジュニア】

ジュニアに対しては序盤からできる限り攻めていくように指示した。

成田選手は持ち前のスピードを活かし、平均スピードの速くなったドライの Hoogerheide のコースとマッチし、序盤は 30 位に近い位置で走れていた。中盤に疲れが見えて順位を落としたが終盤にかけて集中してレース展開できており、順位以上の走りが出ていた。

野寄選手は初めて見る日本とオランダのシクロクロスカルチャーの違いに飲まれていたが、レースでは前を走る成田選手に引っ張られる形で自身のパフォーマンスを維持することができていた。

2 人とも終始バックでレースを展開できており、海外初レースとしては上出来だったと思う。

【リザルト】

成田光志 40 位 +3:23

野寄然新 46 位 +3:56

【女子ジュニア】

スタート時に日吉選手の前方で起きた落車を避けるために止まらざるを得ず、ほぼ最後尾からの再スタートとなった。しかし、再スタート時の立ちこぎで前を追って走っていく姿がとても力強く、気持ちを切らしていないレース姿勢が見て取れた。

その後は周回を重ねるごとに順位を上げていき、中盤に苦しい場面もあったが、バック内の走り方も序盤より上手くなり、コース内の自分の得意なポイントでしっかりと順位を上げられており、とてもポジティブなレースができていた。

小柄な体格だが、その姿はワールドカップでは大きく見え、今週末の世界選手権への期待が膨らんだ。

【リザルト】

日吉愛華 29 位 +4:23

【男子 U23】

序盤は落ち着いて、平均スピードの高いレースなので一人にならないようにバックで走ることを意識して走るように指示を出した。

柚木選手は落ち着きながら冷静にレースを展開していることが見て取れた。鈴木選手は焦りが見えたが、強い気持ちを全面に出す走りでも苦しい場面も耐えてバックで展開ができた。

鈴木選手は海外経験もあり、今シーズンもアメリカで UCI ポイントを獲得してただけあり、海外でのレースに耐性ができているように見えた。2 人とも良い形でレースを終えられた。

【リザルト】

柚木伸元 36 位 +4:12

鈴木来人 37 位 +4:13

【女子エリート】

渡部選手は緊張が止まらないようスタート前に事細かに色々と指示し、ネガティブなことをリアルに予測することで緊張を緩和してもらうように努めた。スタート時に一度止まらざるを得なくなり、最後尾スタートだったが、再スタートする姿は日吉選手同様に力強かった。

1 周目を終える時点でバックになっていたのも、無理をし過ぎないようにイーブンペースで走る姿が印象的だった。しかし、80%で切られるかギリギリになってきたのでラスト 3 周ほどからペースを上げるように声をかけ、自身もペースを上げる姿勢が見て取れたが渡部選手から- 1 Lap となり切られてしまった。

初のエリートクラスで即完走できるほど甘くはなかったが、その走りは素晴らしく、十分に誇れるものだった。

【リザルト】

渡部春雅 53 位 -1Lap

【男子エリート】

沢田選手もスタートでの落車で足止めされ、ほぼ最後尾よりスタートした。

男子エリートは特に平均スピードが速いため、この足止めの影響はつらかったと思う。単独となりながらもペースを刻み続け、自身で追い込んで走る沢田選手の走りがとても印象的だった。

中盤で 2 人のバックになることができ、そこからはペースも落ち着いたが、80%ルールのリミットが迫っており、序盤からの展開を考えるとペースを維持することだけで精一杯で、- 2Lap でレースを終えた。

身体パフォーマンス的にはフルラップへの可能性が見えたとても素晴らしい良いレースだった。私自身も海外で走っているので、沢田選手の周りの選手のパフォーマンスがよくわかる。世界選手権に向け、彼の苦手な部分である技術的側面のディスカッションを行い、沢田選手の走りの精度を上げていきたいと思う。

【リザルト】

沢田時 45 位 -2Lap

【総評】

各選手、時差ボケもあり苦しい中、結果に繋がるすごく良いレースが出来ていた。

男女エリートも数字で見る結果こそ周回遅れだが、レース内容は各選手完璧だったと思う。

天気も晴れており、コースが比較的簡単だったため、今回の好結果に繋がった。

世界選手権では今回のワールドカップ同様に簡単に行くことはないと思うが、スタッフ、選手、一丸となり、困難に立ち向かっていきたい。

竹之内悠

